

除雪機ミッション

SBC-7HN

HSTエア抜きマニュアル

HSTエア抜き及び試運転手順

- 1) 本機にミッションを搭載しすべての周辺部品の取り付けが終了後、サブタンクからオイルを入れる。その際HSTのエア抜き後のオイルレベルの降下を見越して余分に入れておく事。
(サブタンクの常温範囲目盛り以上入れておく)
- 2) 本機駐車ブレーキレバーを(入)にする。
(本機サイドクラッチレバーはL、R共(切)になる。)
- 3) 本機走行クラッチレバーは(切)にする。
- 4) 本機副変速レバーは高速、低速どちらでも良い。
- 5) 本機HSTレバーはニュートラルにする。 共用レバー
- 6) エンジン始動。
- 7) 本機走行クラッチレバーは(入)にする。
- 8) エンジンアイドリング状態でHSTレバーの前後進を繰返しエア抜きを以下の手順に従って充分行う事。

- A. HSTレバーを後進側1/4位に固定し、Rポート側のプラグAを軽くゆっくり徐々に緩めてオイルを漏らし泡が消えるまでエアを抜きそして締める。

注意：オイルが飛び散るので顔を近づけない事。安全メガネ着用の事。
プラグAの緩め具合は取り付け端面から2.5mm位で良い。

- B. HSTレバーを前進側1/4位に固定し、Fポート側のプラグAを軽くゆっくり徐々に緩めてオイルを漏らし泡が消えるまでエアを抜きそして締める。

注意：オイルが飛び散るので顔を近づけない事。安全メガネ着用の事。
プラグAの緩め具合は取り付け端面から2.5mm位で良い。

注意：プラグAを緩める際にコネクタAも同時に緩む場合があるのでコネクタをレンチなどで固定しておく事。

- C. 次にエンジン定格回転及びHSTレバー前後進共フルにて上記A、Bのエア抜きを再度行う事。
- D. フラグA(2ヶ所)を締めた状態でエンジン定格回転にてHSTレバーの前後進(フル)を繰返しエア抜きを充分に行う事。

別紙 付図1 参照の事(3/3ページ)

- 9) 運転終了後、ミッションのオイル量チェックして不足していれば補給の事。
(サブタンクの常温範囲目盛り内に入れる事)
- 10) そして実際に本機走行確認する事。走行不良時、エア抜きが不完全の場合があるので、その場合は再度エア抜き作業(8)項を行う事。
走行不良が軽度の場合は本機にて前後進を何回か繰り返せば良い。
- 11) 最後にオイルチェックする事。

— — — 以上 — — —

SBC-7HNミッション外觀図

